

22 ページ	生活年齢が 4 歳を超えている受検者については、ケンケン左右ができた場合、発達年齢は算出しないでよい。	生活年齢が 4 歳 5 カ月を超えている受検者については、必要に応じて発達年齢を算出してもよい。	第 7 刷 (2024.6.30 発行)
28 ページ	UI ATNR 反射	UI ATNR 姿勢優位	第 7 刷
66 ページ	2 試行中 1 回だけが正答の場合は、同じ手続でもう一度施行する。	2 試行中 1 回だけが正答の場合は、 同じ手続でもう一度施行する。	第 7 刷
164 ページ 165 ページ	・・・じゃんけんをしてください」と言い、 「じゃんけん、ぽん」と言って、グーを出す。	・・・じゃんけんをしてください」と言い（ここでは口頭のみで、手を作って見せてはいけない）、 「じゃんけん、ぽん」と言って、検査者はグーを出す。	第 7 刷
164 ページ 165 ページ	言葉でのみ教示し、実際に検査者が手を作って見せてはいけない。	検査者は教示の際に、実際に手を作って見せてはいけない。	第 7 刷

解説書（理論と解釈）

ページ	修正内容	修正時期
113 ページ	・下の表 勉強する → 勉強（を）する ・欄外に補足の一文を追加 ※「書く」「乗る」「遊ぶ」「見る」など動詞一語の言い切りは不可とする。	第 3 刷 (2021.6.30 発行)
121 ページ ～ 139 ページ	偏差 DQ 換算表の詳細な年齢区分 (14:0～14:6) は 14 歳 0 カ月 1 日～14 歳 6 カ月 0 日 (14:6～15:0) は 14 歳 6 カ月 1 日～15 歳 0 カ月 0 日 …以下同様	第 3 刷
46 ページ 26 行目	(誤) 新 K 式検査 2001 の各検査項目を奇遇折半… → (正) 新 K 式検査 2020 の各検査項目を奇遇折半…	第 3 刷
108 ページ	(1) の説明の 3～4 行目「頭髪は…修正している。」は、 (2) の説明	第 2 刷 (2021.4.30 発行)
119 ページ	(修正前) 生活年齢 14 歳以上、かつ、・・・すべてにおいて 14 歳を超えている場合には、・・・生活年齢と発達年齢が 14 歳を超えているが・・・ (修正後) 生活年齢 14 歳 0 カ月 1 日 (168 月) 以上、かつ、・・・すべてにおいて 14 歳 (168 月) 以上の場合には、・・・生活年齢と発達年齢がともに 14 歳 (168 月) を超えているが・・・	第 6 刷 (2022.8.31 発行)
119 ページ	VI-1 節 偏差 DQ 換算表の使用方法 (修正前) まず、認知・適応領域、言語・社会領域・・・ (修正後) VI章-2 節の偏差 DQ 換算表から、生活年齢に対応する換算表を選ぶ。なお、この場合は生活年齢の補正は行わない。認知・適応領域、言語・社会領域、全領域について、得点から偏差 DQ に換算する (図 VI-1)。	第 6 刷